

八 昭和二十三年三月ゴーリンで青年行動隊で一月の勉強にいった。

九 青年行動隊から帰り三〇一会の木村小隊に移り鉄道作業に入った。

十 昭和二十三年十一月二十五日ナホトカ港より舞鶴港に帰る。

#### 注・抑留期間の医務室の概況

(イ) 自動車小隊の赤松さん、タンク爆発し死亡。(ロ) 小野塚上等兵病気で死亡、肺炎とのこと。(ハ) 斉藤軍医、収容所内での腹部手術で死亡。(ニ) フロロワ、ポリナヤ、ザパローナ女医さんであった。以上が野村医務室での勤務であった。

## シベリアの思い出

東京都 木村 高次

昭和二十(一九四五)年九月三日牡丹江で終戦。三〇一に収容された。

三〇一分所木村小隊のできるまでについて。

入所以来縫製工として約二年程度いましたが、当時工場の責任者でペトロの妻でしたアーニヤに私は何かと可愛がられました。それを疎まれ大喧嘩になり、あげくの果てに解雇されました。翌日裏山で路盤の基になる穴掘りの作業に行かされました。山は岩盤で大変でした。私の受け持った場所でのノルマは五十センチでした。一メートル四方の所が幸いに砂地の楽な所なので二メートル程度を三時間くらいで掘り終わった。普通二十〜三十センチ掘るのがやっとなので、後は穴の中で眠っているとロスケが来て起こされて事情を話す

と、びっくりしていました。

その工事より路盤工事の責任者になり、木村小队として選ばれました。穴掘りの後は発破を仕掛け路盤へ運び線路工事になるのですが、その工事は大変きつい仕事でしたが、皆様のお骨折りで線路は完成しました。機関車が入って石炭を運んできて降ろし作業が始まりましたが、昼間だけなら良いのですが夜昼を問わず入庫して来るので隊員が非常に疲れてしまったので、ロシア側の監督と相談して二交代にしてみました。明けても暮れても石炭との戦争でしたが、皆さんが一生懸命働いたお陰で分所一番のハラシヨウ・ラボータとなり、いつも上位で過ぎました。お蔭様で皆様方には大変ご苦勞様でした、有り難うございました。

昭和二十三年十一月、山澄丸にて舞鶴港に無事上陸。

## シベリア抑留の思い出

東京都 山田 義秋

一、終戦時、收容所名、その他

昭和十四（一九三九）年徴集（旧北朝鮮七六、入隊）

二十年八月十五日師団司令部付近（トモ図們）で終戦のため陣地構築を中止、下山して旧ソ連軍により武装の解除を受け部隊ごとに徒歩で長い道のを歩き続け、トラックで奥地に輸送された。着いた所で三〇四收容所に收容された。当時の隊長は吉岡中尉と記憶しています。作業の種別は伐採（モミの木）で二人一組で、きついノルマで重労働の日々のため、多数の戦友が亡くなられました。ご冥福をお祈り致します。

收容所単位は千人単位で約四百人の戦友が亡くなった（約一年くらいで）。（別の收容所で恐怖の